



# 第16回 GX実行会議

## 「GXをめぐる情勢と今後の取組について」

---

2025年12月22日  
出光興産株式会社  
代表取締役会長  
木藤 俊一

# 1. S+3Eの大原則と現実的なトランジション

## 液体・固体燃料の重要性

- ✓ 地政学リスク、自然災害リスク等の不確実性が高まる中、エネルギー密度が高く、可搬性・貯蔵性に優れる液体・固体燃料は有事に重要な役割を果たす
- ✓ 液体・固体燃料の低炭素化を進めつつ、安定供給を行うことが、トランジション期においては必要

## 現実的なトランジション

- ✓ 不確実性が高まる中、脱炭素化への道筋はマルチパスウェイが重要であり、時間軸を意識して取り組むべき
- ✓ トランジション期における燃料の低炭素化・脱炭素化のためには、海外の資源・権益（価格競争力のあるバイオ原料・クリーンな水素等の製造が可能な再エネ適地等）の獲得も重要

## エネルギー効率化に調和したカーボンプライシング

- ✓ トランジション期において排出量取引制度による過度な負担は、国内製品の競争力低下、海外製品への代替を誘発し、日本のエネルギー効率化低下につながることを懸念
- ✓ 制度運用にあたって、周辺諸国のカーボンプライスや我が国のエネルギー安定供給の状況によっては柔軟かつ機動的な見直しを行うべき

## 2. GX事業促進のための市場環境整備

### 需要創出の必要性

- ✓ GX製品・サービスの自律的普及のためには、支援制度による黎明期の負担抑制と合わせて、規制・制度等を組み合わせることで需要を創出するなど、規制と支援が一体となった需要創出の仕組みが不可欠
- ✓ 公共調達における優先調達や各種政策支援における要件化などが需要創出には重要であり、グリーン鉄以外のGX製品・サービスにも広げていくことが必要

### 国民理解の促進

- ✓ 低炭素化・脱炭素化を促進する上で伴うコスト負担は社会全体で最適化すべき
- ✓ 低炭素化・脱炭素化に伴うコストアップを受容する国民意識の醸成が必須であり、政府の効果的かつ積極的な広報、政策の展開が重要

### 実効的かつ柔軟な支援策

- ✓ GXサプライチェーン構築には供給側、需要側の双方に対して支援が不可欠であるとともに、企業の意思決定を行うために必要な費用がカバーされていることが必須
- ✓ 資材費高騰、人手不足、働き方改革等を起点とする工事費高騰、完工遅延リスクが高まる中、状況に応じた追加支援、期限延長等の柔軟な措置も必要